



令和5年度 三股町立梶山小学校 学校だより(No17)

かじやま



かんだうがいっぱい じまんがいっぱい やる気じゅう分 毎日が楽しい 梶山小

R6.2.16(金) : 文責 校長

自己肯定感について考える！～その2～



学校だより(No16)において、「自己肯定感」を話題にしましたが、反響がありました。後編を楽しみにされている方がいることも分かりましたので、早速、記載します。

自己肯定感の高い子供は、最初から自己肯定感が高かったわけではないと思います。親や私たち教職員、周りの大人との関わり方によって、高くなったり低くなったりするのではないかと思います。そして、子供たちの自己肯定感を上げるためには、1人1人

向き合っ、臨機応変に対応していくことが大事なのだと思います。

以下の3点は、大学の先生や知人にお聞きした、自己肯定感をもてるようになった事例です。参考になればと思います。

*写真は150周年記念式典のための全校音楽の様子



●子供の話をしっかり聞く。

学校で起こった出来事や自分が発見したことなどを子供が話す時は、しっかり聞いてあげないと自己肯定感を低下させるという話を聞きました。ある子供は、家に帰って、学校であったことを、まずおばあちゃんに話し、仕事から帰ってきた母親に話し、その後帰ってきた父親に、毎日3回話していたのだそうです(全て同じ話だそうです)。その子供は3人全員に話したかったのだと思います。

●自己決定は子供にさせる。

子供は成長に合わせて、自分で決めることがどんどん増えてきます。「食べ物の好み」、「欲しい物の選択」、「やってみたい習い事」等。いつまでも、周りが決めてしまうと、自分の意見は尊重されないと思うようになるのではないかと考えます。また、自分で決めたことは最後までやりきるという成功体験は大事だと思います。

●子供の挑戦を結果で判断しない。

子供が絵を描いている時、うまい・へたで判断したり、なわとびに挑戦している時、できる・できないで判断したりするという対応をすると、その時点でへた・できないと思込み、自己肯定感が低くなるのではないかと思います。私の知人は、自分の子供が「絵が大好き」だと分かった時、それ以降は、決して絵に関してマイナスの言葉は使わなかったそうです。ただひらすら、子供が絵を描く環境を整備したのだそうです。

性格を形作る時期ともいえる小学校期は、自己肯定感を育む大切な期間だと思います。親は、子供の個性や成長を見ながら、子供自身を認めることが大事だと思います。子供は、「自分は認められている」と感じたら、自己肯定感が育つのではないかと思います。

☆彡 とにかく いちばん大切なのは まず自分が幸せになること 斎藤一人<実業家>

❖ 「自立・貢献できる社会人をめざして！」知徳体のバランスのとれた児童の育成